

令和3年度 第2回浜松市市民協働推進委員会

日 時：令和3年11月10日(水) 午前9時～10時35分

場 所：浜松市役所 本館8階 第4委員会室

出席者：木村佐枝子委員長、須山嘉七郎副委員長、加藤小凜委員、鈴木春光委員、成瀬記言委員、橋本成美委員、廣瀬稔也委員、古橋 理委員、村木則予委員
(オブザーバー) 今中秀裕浜松市市民協働センター長

報道関係：0名

傍 聴 者：2名

事務局：奥家市民部長、藤田市民部次長、松下市民協働・地域政策課長補佐、氏原主幹、鈴木康太主任、梶浦 遼主任、吉原、高橋

会議次第

1 開会

2 議事

- (1) 浜松市市民協働センター愛称の選定について
- (2) はままつ夢基金事業費補助金の審査について(事業提案2件)
- (3) 企業のCSR活動表彰受賞企業に対する市調達優遇措置への追加について
- (4) その他

3 閉会

《資料》

- ・市民協働センター愛称案の応募結果について・・・・・・・・・・資料1
- ・浜松市市民協働センター愛称一覧(事務局による候補案)・・・・・・・・資料2
- ・浜松市市民協働センター愛称応募一覧(全件)・・・・・・・・・・資料3
- ・当日審査の手引き(事業提案)・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料4
- ・はままつ夢基金事業費補助金 質問回答書・・・・・・・・・・資料5
- ・企業のCSR活動表彰受賞企業に対する市調達優遇措置への追加について・・資料6

1 開 会

事 務 局 : ただ今から令和3年度第2回浜松市市民協働推進委員会を開催する。

本日は委員の皆様全員に出席をしていただいているので、9人で会議を進める。また、本日も今中市民協働センター長にオブザーバーとして出席いただいている。本日の終了時刻は、10時30分を予定している。

それでは、ここからの議事進行は、木村委員長にお願いする。

木村委員長 : 初めに、本会議の公開・非公開について確認する。

事 務 局 : 本日の議事「浜松市市民協働センター愛称の選定」と「はままつ夢基金の審査」については非公開としたい。審査における個人情報や決定前の愛称案が公になることにより、浜松市情報公開条例の第7条第5号、第6号に該当し、事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがある。夢基金の事業提案に対する採択・不採択の結果は、本日報道機関へ投げこむよう予定している。市民協働センターの愛称については、今後市でさらなる審議を行うため、公表は年度末頃となる予定である。

会議の流れとしては、まず市民協働センターの愛称についての説明、次にははままつ夢基金の事業提案団体による事業説明およびヒアリング、その次に企業のCSR活動表彰受賞企業に対する市調達課優遇措置への追加について説明し、それ以降を非公開とすることを事務局から提案するがいかがか。

—委員一同異議なし—

木村委員長 : 委員の皆さんから同意をいただいたので、本日の会議は2つの議事の審査に入るまでを公開、審査以降を非公開で行う。

—傍聴人2名入室—

木村委員長 : 本日の会議の進め方だが、市民協働センターの愛称について応募のあった件数や今後のスケジュール等の説明を行い、次にははままつ夢基金について、事業提案団体による事業説明および団体へのヒアリングを行う。その次に「企業のCSR活動表彰受賞企業に対する市調達優遇措置への追加について」の説明をする。それ以降は傍聴人、報道関係者の皆様には退出していただき非公開としたうえで審査を行う。

※非公開とする理由について説明

2 議 事 (1)浜松市市民協働センター愛称の選定(応募結果)について

事 務 局 : ※愛称案・選定方法について資料に基づき説明。

木村委員長 : 何か質問等はあるか。なければ次の議事に移る。

(2)はままつ夢基金事業費補助金の審査について(事業提案2件)

今回は、事業提案2件を審査することとなっている。審査に入る前に、審査

木村委員長 : 方法について事務局から説明を求める。

※審査・選考方法について資料に基づき説明。

事務局 : 何か質問等はあるか。なければ審査に入る。

木村委員長 : 申請団体の関係者にお越しいただいているので、入室してご説明をお願いしたい。

—「特定非営利活動法人 みんなのおしごと」関係者 2 名入室—

※以下の提案事業について説明。

申請団体 : [事業名]学童保育におけるイベントの実施

[事業内容]新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながらの、ギター・フルートを用いたコンサートの実施とバルーンアートやマジックを用いたイベントの実施。5 か所程度を想定。

[質疑応答]

村木委員 : 5 か所で実施するとのことだが、既に実施しているか。

申請団体 : 8 月から 2 か所で実施した。音楽のイベントでは、コロナ対策として大きなテーブルを置き 2m の距離を保つようにした。また、バルーンアート作品をひとつずつプレゼントした。

村木委員 : 参加人数はどのくらいか。

申請団体 : 1 回目は 25 人程度、2 回目は 32 人程度。

木村委員長 : 他に質問はあるか。なければ、申請団体の皆さまは、ここで退席をお願いしたい。審査結果については、後日、事務局から書面でお伝えする。

【申請団体関係者退室】

木村委員長 : 続いて「二俣未来まちづくり協議会」にご入室、説明をお願いしたい。

—「二俣未来まちづくり協議会」関係者 3 名入室—

申請団体 : ※以下の提案事業について説明。

[事業名]二俣地域まちづくり事業

[事業内容]

- ・当協議会の構成団体や学生を含めた地域ボランティアと協働した二俣城跡・鳥羽山城跡のクリーンアップ作戦
- ・二俣城・鳥羽山城の御城印を制作し、来訪者に配布

[質疑応答]

廣瀬委員 : 観光客の出すゴミは多いか。もし多いとすると、捨てられないような工夫も必要ではないか。また、御城印の配布は以前「500 枚だとすぐになくなってしまうのではないか」という心配が出ていたが、どうだったか。

申請団体 : ゴミについては、案外人工的なゴミはほとんどなく安心している。御城印 500 枚は 10 日でなくなってしまった。口コミで広まったようだ。

- 鈴木委員：清掃活動では草刈りが大変だと思う。草刈りの道具などの物品購入を補助してくれる制度があるので、探してみて、使えるものがあれば使った方が良い。
- 須山副委員長：天竜高校や浜松学院大学の学生ボランティアだけでなく、地元の人がどのくらいお城に愛情があるかにかかっていると思うので、地域の方でボランティアをやってくれる人が増えると、より二俣のためになると思う。外部はもちろんだが、地元の支援も得られるように頑張ってもらいたい。
- 橋本委員：アンケートの内容はどういうものか。また、こういった年齢層の人が訪れているのか。
- 申請団体：御城印を500枚配布した時点でのアンケート結果は、男女比は6:4で男性が多い。年齢的には50代31%、40代24%、60代18%、70代10%となっている。若い人が少なく、10代2%、20代2%、30代11%である。住まいについては、天竜区内11%、天竜区以外の浜松市内38%、県外が26%、浜松市以外の県内が25%である。誰と来たかについては、一人での来訪が最も多く52%、夫婦が23%、家族13%、友人同士が11%である。
- 橋本委員：せっかくSNSで情報発信をしているので、ハッシュタグを活用して繋がれるようにすれば、若い世代にもっと呼び掛けられる。高校生や大学生はSNSに詳しいので、学生ボランティアに教えてもらって駆使すれば幅広い年代の人に来てもらえると思う。
- 加藤委員：アンケート結果では若者の来訪が少ないが、学生の立場から見ると、興味がなかったことでもボランティアに参加したことがきっかけで関心をもつこともある。学生ボランティアを募ることにもっと力を入れてはどうか。
- 木村委員長：他に質問はあるか。なければ議事を終了する。
申請団体の皆さまは、ここで退席をお願いしたい。
審査結果については、後日、事務局から書面でお伝えする。

【申請団体関係者退室】

(3)企業のCSR活動表彰受賞企業に対する市調達優遇措置への追加について

- 木村委員長：続いて、企業のCSR活動表彰受賞企業に対する市調達優遇措置への追加についての議事に移る。事務局から説明をお願いしたい。
- 事務局：※資料に基づき説明
- 木村委員長：何か質問はないか。なければ議事を終了する。
それでは、ここからは市民協働センターの愛称とはままつ夢基金についての審査に入るため、非公開で会議を進めていきたい。傍聴人の皆様にはここで退席をお願いしたい。

【傍聴人退室】

(2) はままつ夢基金事業費補助金の審査について(事業提案 2 件)

—非公開部分—

(1) 浜松市民協働センター愛称の選定(審査)について

—非公開部分—

(3) その他

事務局： 次回の委員会は、委員の皆様のご都合がよければ 12 月 27 日(月)午後 2 時からとしたいが、いかがか。

—委員一同異議なし—

事務局： それではその日で決定とさせていただく。案件は CSR 活動表彰の審査。現在 22 件の応募がある。具体的な事前審査の内容等は改めてご連絡する。

木村委員長： 以上をもって、令和 3 年度第 2 回浜松市市民協働推進委員会を閉会する。